

### 3 統合校調査結果

#### ○ 調査内容

平成 28～30 年度に統合した学校を対象に、学校統合前後にどのような課題が生じて、その課題の解決に向けてどのように取り組んだのか、調査を行いました。

#### 調査校

(平成 28 年度統合校) ※【 】内は統合前の学校数

取手市立取手西小学校【2】	稲敷市立江戸崎小学校【3】	かすみがうら市立霞ヶ浦北小学校【3】
行方市立北浦小学校【3】	鉾田市立鉾田北小学校【5】	かすみがうら市立霞ヶ浦南小学校【4】
北茨城市立関本小学校【2】	茨城町立葵小学校【3】	大洗町立南小学校【2】

(平成 29 年度統合校)

高萩市立松岡小学校【2】	稲敷市立あずま東小学校【2】	龍ヶ崎市立龍ヶ崎西小学校【2】
高萩市立松岡中学校【2】	河内町立かわち学園中学校【2】	

(平成 30 年度統合校)

阿見町立阿見小学校【2】	神栖市立やたべ土合小学校【2】	常陸太田市立水府小学校【2】
阿見町立本郷小学校【2】	石岡市立石岡中学校【2】	つくば市立秀峰筑波義務教育学校【9】
土浦市立新治学園義務教育学校【4】	河内町立かわち学園(義務教育学校)【4】	桜川市立桃山学園(義務教育学校)【3】

#### ○ 調査結果

課題を大きく 6 つに分け、課題ごとに取組等を紹介します。

**課題① 児童生徒の環境の変化について**

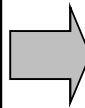
(1) 統合前に比べて、児童生徒一人あたりの指導機会の減少

**<取組のポイント>**

統合して児童生徒数が多くなると、統合前に比べて個別発表の機会は確保しにくくなります。そこで、意図的に小さいグループを作ることで、児童生徒間の話合いの場を設け、児童生徒一人一人の発表機会を確保することができると考えられます。また、指導形態を工夫することにより、児童生徒一人一人に応じた学習支援が可能となります。

**【課題】**

銚田北小学校、かわち学園では、統合により児童生徒数が統合前に比べて大幅に増えている。そのため、授業等において児童生徒一人あたりの発表機会が減少している。



**《取組》…銚田北小学校、かわち学園**

銚田北小学校では、授業等においてグループ学習を多く取り入れることで、自分の考えを伝えることや相手の意見を聞く機会を増やしている。

かわち学園では、アクティブ・ラーニングの考え方による小グループでの協同学習を行うことで、全ての児童生徒に聴き合いや説明、確認の機会を保障している。

**【課題】**

関本小学校に統合された富士ヶ丘小学校は全校児童13名ほど(H27)であったため、統合後、保護者から「児童一人あたりの指導時間が短くなって心配である」といった声が聞かれた。



**《取組》…関本小学校**

一人あたりの十分な指導時間を確保するために、授業ではチーム・ティーチングや少人数指導を取り入れることで、個に応じた支援に努めている。また、補充学習の時間を設け、個に対応した指導を行っている。さらに1・2年、3・4年、5・6年のブロックごとに作文発表会を催し、児童一人一人の発表機会を増やしている。

(2) 統合による環境変化への対応

＜取組のポイント＞

複数の学校の児童生徒が1つの学校で一緒になることは中学校への進学に似ています。急激な環境の変化にスムーズに対応するためには、統合前から学校同士で行事交流や合同授業を行うなど、積極的に事前交流の場を設ける必要があります。また、実際に一緒に学校生活を送ってみると上手いかわからないこともあるため、アンケート等によって児童生徒の状態を把握し、課題に応じた支援策を考え、学校全体で取り組むことも大切だと考えられます。

そのほかにも、学校によって教員の授業づくりの価値観や学習方法などが異なることもあり、教員同士も統合前から調整を行っている学校もあります。

【課題】

人数が増えたことにより、大人数での学習や生活といった新しい環境に馴染めない児童が出てくるのではないかと心配された。



＜取組＞…北浦小学校、松岡小学校、松岡中学校、桃山学園、秀峰筑波義務教育学校

北浦小学校では、全ての児童が統合後の学校に馴染めるように、「ともだちのいいところみつめた」と称して、同級生の良いところをカードに書いて掲示するという取組を行っている。

松岡小学校では、統合前からクラブ活動、町探検、校外学習、一日交流等の交流学习を計画的に行い、統合された君田小学校出身の児童が大人数での学習や生活に馴染めるようにした。また、君田小学校では、学習や生活の決まりを松岡小学校と同じにして生活するといった工夫も行った。

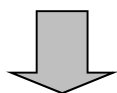
松岡中学校では、合同の授業やマラソン大会、宿泊学習、部活など事前に十数回ほど交流の機会を設けた。統合された君田中学校の生徒が自ら希望して文化祭の合唱コンクールに参加するなど、学校側も生徒の意思を汲んでサポートした。

桃山学園では、統合前から計画的に交流行事を行ったり、学習や生活のきまりを統一したりしてきた。統合後は、学校に馴染めていない児童生徒が見受けられた際には、その都度、特別支援コーディネーターや生徒指導主事を中心としたケース会議を行って対策を協議している。どのように対応したらよいか関係機関と連携を図りながらチームで対処するようにしている。

秀峰筑波義務教育学校では、開校2年前から9つの学校で学習スタイルを統一している。また、開校1年前には学校生活シミュレーションを複数回実施して交流を深め、宿泊学習や校外学習も合同で実施してきた。交流後のアンケート調査では「事前のシミュレーションや行事の合同開催を通して不安が解消された。」「安心して新しい学校生活を迎えられる」などの回答が得られた。こうして児童生徒間の交流を大切にしている活動を積み重ねてきたことで、統合後の学校生活をスムーズに送ることができた。

【課題】

統合後、児童が学校生活を送っていく中で、学校が把握できない問題があるのではないかと心配された。



《取組》…霞ヶ浦南小学校，取手西小学校，阿見小学校，本郷小学校

霞ヶ浦南小学校では月に1回，児童にアンケートを実施している。

取手西小学校では市教育委員会のもと，児童と保護者にアンケートを実施した。

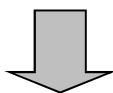
阿見小学校，本郷小学校では，児童と保護者それぞれに統合に関するアンケートを実施し，本郷小学校は回答結果を自校のホームページで公開している。また，児童への生活アンケートも定期的実施している。

アンケートでは，児童の多くから「新しい友だちができた」など前向きな意見があった。また，結果をもとに教育相談などを行うことで，不安等を抱えている児童がいた場合にも，心のケアができるよう対処している。

こうして回答から得られる意見や感想をもとに，学校運営の参考にして改善を図っている。

【課題】

複数の学校が一緒になることで，それぞれ教員によって授業づくりの価値観や学習スタイルが異なっており，学級によってズレが生じてしまうのが課題であった。



《取組》…かわち学園，やたべ土合小学校

かわち学園では，毎月1回の授業公開による校内研修を行っており，町教育委員会も関与しながら，全教職員で指導観のすり合わせをしている。これにより，学級担任や教科担任による授業のズレを修正し，児童生徒が共通の基盤で学べるよう工夫している。

やたべ土合小学校では，板書やノートの使い方，学習のきまりといった学習スタイルについて，統合前から教員同士ですり合わせを行うなどして共通理解を図った。相互授業参観等により，授業方法に異なる点が見受けられたため，統合後も校内研修等で改善点について調整しながら指導している。

**課題② 学区拡大による通学時の安全確保について**

(1) 児童生徒に対する登下校時の安全指導等

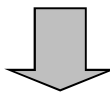
＜取組のポイント＞

統合によって、自転車通学やスクールバス等を活用して登下校することとなった児童生徒はたくさんおり、教員が安全指導等をしている学校が多くあります。しかし、学区も広く、教員だけでは児童生徒の安全を守ることは難しくなっています。保護者や地域住民と協力することは、児童生徒の安全を確保するためだけではなく、教員の負担軽減のためにも不可欠となっています。

【課題】

スクールバスや路線バスを活用している学校の教員だけでは、バス停までの区間を指導することは困難である。

また、交通量が多い道路沿いなどもあり、バス乗車前及び下車後の交通安全の確保が心配された。



＜取組＞…霞ヶ浦北小学校、銚田北小学校、龍ヶ崎西小学校、あずま東小学校、水府小学校、新治学園義務教育学校

霞ヶ浦北小学校では、バス停ごとに登校班を組織しており、また、月に1回、教員もバスに乗車して下校指導を行っている。

銚田北小学校では、バス停の設置箇所を各地区の子ども会育成会が決定し、育成会の保護者が登下校時の見守りを行っている。

龍ヶ崎西小学校では、地域のサポーターの方が毎日、バス停までの道のりで危ないところまできてくれたり、注意してくれたりして見守ってくれている。また、月に数回教員もバスに乗り合わせており、安全指導や乗車時のマナー指導等を行っている。

あずま東小学校では、バスの座席を指定し、毎週月曜日に教員がスクールバスに同乗して、安全指導をしている。また、校長先生が一学期間は、スクールバスと路線バスの4つのバス路線を曜日ごとに分けて、バスの後ろを自家用車で追尾するなどして、児童の乗車状況の見守りを行っていた。

水府小学校では、毎朝バス停にて、日替わりの保護者当番、校長、ボランティアが一緒になって見守りを行っている。保護者当番はすべての家庭にお願いしている。また、毎月保護者や児童クラブ関係者に下校時刻及びバス時刻の紙を配布したり、地域の方へ回覧したりしている。

新治学園義務教育学校では、ローテーションを組み、定期的に保護者がスクールバスに同乗して指導を行っている。

【課題】

統合により通学距離が伸びる児童や国道沿いなど交通量が多い道路沿いを通学する児童が増えたことで安全確保が課題となった。



《取組》…取手西小学校, かわち学園, 新治学園義務教育学校

取手西小学校では、「スクールガード」として、地域のボランティアの方々が登下校時に児童を引率してくださっている。地区によっては別のボランティアの方々が通学路の途中で引率を引き継いでくださっている。

かわち学園では、自転車通学の生徒が多く、通学路には信号がないなど危険な箇所もあるため、教員をポイントごとに配置している。また、交通量の多い道路では、登校時に地域のボランティアの方々が横断歩道のそばに立ち、児童生徒を見守ってくださっている。さらに、スクールバスの学校での発着時にも教員を配置し、児童生徒の安全を確保している。

新治学園義務教育学校では、徒歩通学で危険となる箇所には、毎日保護者に見守りをお願いしており、保護者と連携しながら安全確保に努めている。

(2) 危険箇所に対する対応

＜取組のポイント＞

通学路における危険箇所については、教職員や児童生徒だけでなく、保護者やボランティアに向けて、周知する必要があります。また、児童生徒にも安全管理の一環として、日常的に交通安全について指導をする必要があります。警察などの関係機関と協力することで、より一層地域の交通安全意識を高めることができます。

【課題】

通学路の安全については、保護者の送迎や見守りによって対策が取られているが、児童自らも交通安全について学ばなければならない。どのようにして児童の安全を守るべきか。

《取組》…関本小学校

児童が実際に通学している危険箇所を想定し、帰りの会や学級活動の時間に「危険予測トレーニング」を実施している。また、地域のボランティアの方が児童の登下校の時間に合わせてみまわりをしてくれている。

【課題】

不審者情報や危険箇所については、学校や家庭、地域住民それぞれが共有していく必要がある。教員による危険箇所の把握や安全マップ等の作成は負担が大きいため、保護者等の協力も必要となる。



《取組》…北浦小学校，銚田北小学校，石岡中学校

北浦小学校では、PTA役員との協力のもと、学区内の危険箇所を把握して安全マップを作成した。また、各地区にあった「110番の家」に依頼し、引き続き児童の安全確保への協力をお願いしている。

銚田北小学校では、PTA校外指導委員会と危険箇所を共有して安全マップを作成した。また、特に危険な箇所については関係機関（警察や道路管理者など）に要望して改善を求めている。

石岡中学校では、パソコン用ソフトを活用して、電子化した安全マップを作成した。生徒の通学路や自宅等の情報をデータベース化し、危険箇所等のコメントも併せて登録している。危険箇所等の情報については、地域や保護者、PTA特別委員会の協力を得ながら把握している。安全マップは職員での巡回や下校指導の際に活用している。

課題③ 学校運営に関する工夫について

(1) 学校行事の決定や統合業務の負担軽減

＜取組のポイント＞

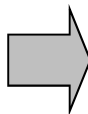
統合に際して、新校の学校行事の決定は非常に重要なものです。時間管理を行ったうえで、閉校式や開校式の準備、物品等の整理など、計画的に準備を進めることが大切です。

統合後の学校行事が特定の地区に偏ってしまうと、もう一方の地域色が弱まってしまいます。そのため、学校行事を決定する際は特に配慮を要します。保護者の中には自分の学校の地域色を強くしようと意見することも考えられますので、保護者には新しい学校を一から創っていくという意識を持ってもらうことが大切です。

統合業務において大変なのは統合直前です。開校式典や閉校式典の準備、備品の移動等があるため、とても忙しくなります。そこで、始業式の前に着任式として児童も含めて登校してもらい、クラス発表やスクールバスの試運転を行う学校がありました。このように、一部の予定を別日として早めることで、始業式と開校式典を同日に行う負担を減らすことができます。

【課題】

統合に伴う業務の増加は、教員にとって大きな負担となっており、業務の効率化を図る必要があるが、どのような方法があるか。

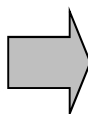


《取組》…霞ヶ浦北小学校

霞ヶ浦北小学校では、統合に伴う会議や打ち合わせの負担を軽減するため、会議に時間制限を設け、時間を順守することで、次の業務に取り掛かることができた。また、データ化することによって資料の共有をスムーズに行った。

【課題】

統合後の学校行事を決める際に、どこか一つの学校をベースにすると、地域間で摩擦が生じる可能性があるため、ゼロベースで見直す必要がある。決定に向けてどのような議論が必要か。



《取組》…葵小学校、あずま東小学校、江戸崎小学校、石岡中学校

葵小学校とあずま東小学校では、統合校の行事や慣習を持ち寄り、良いところを取り入れるよう努めた。葵小学校では、特に大きな学校行事（運動会や文化祭など）については、重点的に打合せをする必要があるため、時間をかけた。

江戸崎小学校では、統合校がこれまで実施していた行事をバランス良く取り入れつつ、新たな内容も追加した。職場見学等の実施にあたって、統合によって児童数が増えたことで企業等の受け入れが難しくなる場合もあるため、事前に確認や調整が必要である。

石岡中学校では、統合前に合同の宿泊学習や、修学旅行の準備を行った。修学旅行ではスローガンやグループ分けはどのようにするか、どんなコースで活動するかなど、両校の生徒たちが話し合いながら検討した。また、生徒会が交流事業として文化祭の相互参観や対面式等を計画、実施した。そのほかにも、入学式では石岡中出身者と城南中出身者の2人の生徒会長がそれぞれ挨拶を行うなど、2つの学校の良さを生かせるよう工夫している。





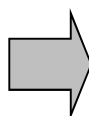
(2) 学校統合に伴い、小中連携や一貫教育を導入する際の教育課程の編成の工夫

＜取組のポイント＞

統合を機に、新校舎を中学校付近に建設し、小中連携を強化している学校もあります。統合後の小中連携をどのように進めるかなど、小中学校間での調整が必要となります。また、施設一体型の小中一貫校や新たに義務教育学校を設置する市町村もあります。特色ある教育課程を編成したり、異学年交流を通して子どもたちの豊かな心を育んだり、9年間を見通したさまざまな取り組みがなされています。

【課題】

統合を契機に、南中学校の敷地内に南小学校を新設し、小中で連携した教育課程を取り入れることにしたが、どのように教育課程を組めばよいか。

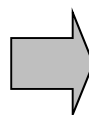


＜取組＞…南小学校

小学校高学年から教科担任制を導入し、南中学校の教員3名が小学校でも指導できるよう兼務発令している。そのため、小学校の時間割を決める際には、南中学校の時間割を考慮して計画を立てた。

【課題】

統合を契機に、小中一貫教育を導入したいと考えているが、教育課程の編成の際に特色を発揮することが課題である。



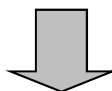
＜取組＞…関本小学校、水府小学校

関本小学校は、小中一貫の教育課程を編成するうえで、春日学園義務教育学校（つくば市）と国田義務教育学校（水戸市）の教育課程を参考にした。そのうえで、関本小中学校らしさを出すために、全学年で関本カボチャを栽培することにした。また、小中学校の教員は兼務発令になっているので、音楽、理科、体育、書写は教科担任制を実施している。

水府小学校では、統合前より水府小・山田小・水府中と教育課程等のすり合わせを行い、9年間を見通したカリキュラムを設定した。小学校の外国語活動の際には、中学校の教員も一緒に参加するなど、乗り入れ授業によって指導の充実を図っている。

【課題】

統合に伴い、新たに義務教育学校を設置することとなったが、教育課程の編成に時間を要した。また、前期課程と後期課程では授業時間も異なるため、時間割の調整に苦労した。



《取組》…桃山学園，新治学園義務教育学校，かわち学園，秀峰筑波義務教育学校

桃山学園では、日課表を工夫して前期課程と後期課程のスタート時間をできる限り同じにしている（朝自習，3校時，清掃，5校時のスタートが一緒）。また，総合的な学習の時間については，3年生から9年生において，郷土教育やキャリア教育を取り入れ，教科等横断的なカリキュラムを編成している。そのほかにも，前期課程の教員が後期課程の授業（7年生理科，8年生国語）をしたり，後期課程の教員が前期課程の授業（5，6年生の図工・音楽）をしたりする相互乗り入れ授業や専科教員によるチームティーチング（5，6年生の算数・外国語）といった，特色ある教育を行っている。

新治学園義務教育学校では，「新治ふるさと学習」という独自の教育課程を組み，1～9年生が総合的な学習の時間で様々な活動をしている。3年生と7年生と一緒に田植えを行ったり，そういった活動写真を廊下のICTディスプレイに映して，他学年の児童生徒にも見てもらったりしている。また，後期課程の教員も前期課程の授業に参加しており，T2やT3として参加することで，前期課程と後期課程で授業時間にズレがある中でも，他の授業に支障がないよう工夫しながら指導している。

かわち学園では，5年生の家庭や音楽，6年生の理科と図画工作で後期課程の教員が指導しており，担任もスキルアップのために，T2として授業に参加している。また，縦割り班での清掃を毎日実施しており，複数の学年を一緒に清掃班にしている。たとえば，2・9年生からそれぞれ5名ずつの計10人の清掃班としている。

秀峰筑波義務教育学校では，統合前年度から教育課程の編成に取り組み，5年生から教科担任制を導入して専門性を生かした授業を行っている。また，1～9学年が一つの校舎でともに学び，生活しているという利点を最大限に活用し，クラスター制（縦割り活動）を実施している。児童生徒と一緒に清掃したり遊んだり，異学年交流の機会を通して，思いやりや豊かな心を育てている。また，9年生が2年生の学習を支援する「つながりスタディ」，9年生が1年生の体育をサポートする「つながりPE」を実施するなど，異学年がともに学習する機会も設けている。

**課題④ スクールバスの運行について**

(1) スクールバスの運行に関する工夫

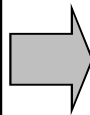
**<取組のポイント>**

スクールバスの運行において運行本数が限られた場合、授業の終了時刻が学年ごとに異なるため、空き時間をどのように活用するのかが重要となります。

また、スクールバスに乗車する児童生徒をその都度把握するためには、連絡系統の構築とルールの周知が必要となります。連絡系統をしっかりと構築することで、非常時などの際にも柔軟に対応することができます。

**【課題】**

下校時のスクールバスの運行については、1便（もしくは2便）しか運行しないため、授業が早めに終わる低学年の児童はバスの出発時刻まで待つことになる。

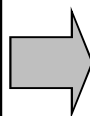


**《取組》**…葵小学校、霞ヶ浦北小学校、霞ヶ浦南小学校

低学年の児童に対して、教員や市（町）費で配置している職員等（平成27年度に統合した青葉小学校同様、茨城町では「放課後スクールサポーター」と呼んでいる）が、宿題の支援や読み聞かせなどを行っている。

**【課題】**

学童保育やスポーツ少年団の活動、保護者による送迎など、その日によって下校手段が異なるため、スクールバスに乗車して下校する児童の把握が課題である。



**《取組》**…霞ヶ浦南小学校、葵小学校、秀峰筑波義務教育学校、本郷小学校、阿見小学校

霞ヶ浦南小学校では、その日の下校手段について連絡帳で報告するよう保護者をお願いしており、学校側で一覧表を作成して教員間で共有している。

葵小学校職員室のボードに書いて情報を共有している。

秀峰筑波義務教育学校では、職員室入口のホワイトボードにスクールバスの号車ごとの週間乗車予定表を掲示することで、情報を共有して対応できるようにしている。変更があった場合もボードに記入している。徒歩通学・自転車通学・バスの号車ごとに担当者において安全指導にあたっている。

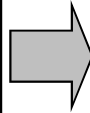
本郷小学校では、スクールバス利用確認表を児童に配布しており、通常の下校方法と異なる場合は提出してもらっている。

阿見小学校では、朝のバス降車時に、その日の下校手段についてバス内にあるホワイトボードにマグネットを使って回答することで、運転手も教員も共に確認している。



【課題】

かわち学園では、雷雨による悪天候の際、バス停から自宅まで徒歩で帰るのは危険と判断し、スクールバスの運行を中止したことがあり、下校時の対応に手間取った。



《取組》…かわち学園

かわち学園では、こうした非常時の際に迅速に対応できるよう、マニュアルを作成した。具体的には、スクールバスでの下校に関しては、教務主任がバス会社に、教頭が緊急時連絡メール等で保護者に連絡し、バスが運行する際は、なるべくバス停留所まで迎えに来てほしい旨を要請することとしている。また、下校開始後は、各学年主任が乗用車でバスに随行することで、児童生徒の安全を確保することとしている。

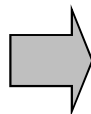
(2) 徒歩通学がなくなることに伴う体力低下を防ぐ工夫

<取組のポイント>

スクールバスの導入に伴う体力の低下は、多くの学校の課題となっています。業間休みや昼休みに工夫を凝らして運動を取り入れ、児童生徒が楽しく取り組めるようにすることが大切です。

【課題】

スクールバスの利用に伴い、児童の体力低下が懸念されている。



《取組》…霞ヶ浦南小学校、葵小学校、阿見小学校

霞ヶ浦南小学校や葵小学校では、児童は業間休みを利用して校庭を走っている（5分程度）。霞ヶ浦南小学校の場合は業間休みの時間を長めに設定して走る時間を確保している。参加は任意であるが、児童の参加率は高く、楽しんで走っている。

阿見小学校では、業間休みでの外遊びを奨励したり、体育の時間でサーキットトレーニングを実施したりすることで、児童の基礎体力の向上を図っている。

**課題⑤ 地域住民や保護者との関係について**

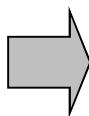
(1) 統合説明会における工夫

**<取組のポイント>**

統合説明会において、保護者からの質問には的確かつ迅速に回答するなど、誠意ある対応が重要です。しかし、すべての保護者の質問に回答するだけの時間があるとは限らないため、事前に質問内容を受け付けるなどして対応することも工夫のひとつです。

**【課題】**

統合説明会において、保護者からの質問が多く、時間も限られていることから、すべての保護者の質問を受けることができないことが予想された。



**《取組》…銚田北小学校**

統合説明会の案内通知と一緒に質問票を同封して送付し、Q&Aを作成して、統合説明会当日に資料として配付することで、質疑時間を有効活用することができた。

(2) 地域住民や保護者との連携

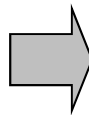
**<取組のポイント>**

P T Aも児童生徒と同様に、複数の学校を一つにするため、お互いの事前交流が大切です。P T A間の運営方法を統一するだけでなく、保護者同士の交流も必要と考えます。

また、常日頃から地域住民や保護者と協力体制を築くことが望ましいです。通学安全ボランティアをはじめ、P T A活動などに理解や協力を得やすくなります。そのためには、地域住民や保護者の不安を少しでも解消できるよう、統合説明などの際は十分に配慮し、地域と学校がより良い関係性を築いていくことが大切だと考えられます。

**【課題】**

統合前は学校間のP T A同士の交流が少なかったことや、P T A間での運営方法の違い等もあり、統合後の保護者関係に不安があった。



**《取組》…銚田北小学校、やたべ土合小学校**

銚田北小学校では、銚田北小学校とP T Aが主催する、保護者による球技会を年に1回実施することで交流を深めている。(種目はソフトバレー) また、統合前の学区を2つに分けて、隣接する銚田北中学校のP T Aと合同で草刈り等の奉仕作業も実施している。

やたべ土合小学校では、P T Aも事前交流を実施し、顔合わせやソフトバレーの練習等を行った。統合後は、中学校のP T Aや若手教員も一緒になってソフトバレーの練習をしており、交流を深めている。

【課題】

統合に対して不安を感じている児童生徒の保護者等への対応が心配された。



《取組》…松岡小学校

統合前に松岡小学校のPTA役員と君田小学校の保護者との懇談会を開催し、事前交流を図った。また、君田小学校の学校行事に松岡小学校の職員が出向き、保護者に声掛けをしたり、統合後も学期ごとに担任と保護者との面談を行ったりするなど、保護者の気持ちに寄り添った対応に努めている。さらに、君田小学校出身の児童の個人カードを作成し、児童及び保護者の様子などを記録し、情報を教員同士で共有できるようにしている。

＜取組のポイント＞

地域資源を活かした行事を取り入れることは、学校と地域の協力体制を構築するうえで大切なことです。

また、統合を機に新しい取組等を導入する学校もあります。関本小学校では、地域からの要望を受けてICTや英語教育を導入することになりました。南小学校では、南中学校で採用している体操着と似たデザインを新たに採用しました。（購入は保護者の経済的負担を考慮し、任意としています。）

【課題】

統合後、地域との関係が希薄になったり、学校がなくなった地域の活気が弱まったりすることが懸念されている。地域と関わりが持てる学校行事が必要ではないか。

《取組》…関本小学校、鉾田北小学校

関本小学校では、「先輩の話を聞く会」として、関本小中学校に縁のある方に協力していただき講演会を実施している。

鉾田北小学校では、鉾田農業高校の協力のもと、田植えと稲刈りを体験し、勤労の喜びを学んでいる。

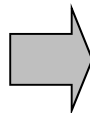
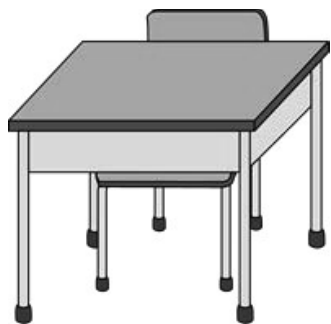
課題⑥ 物品の整理・管理・移動について

<取組のポイント>

物品に関しては、多くの学校で課題となっています。教材などの物品は児童生徒数をもとに必要数を予想できますが、管理物品については実際に配置してみないと分からないため、過不足が生じやすいと考えられます。そこで統合規模が似ている学校に聞くなどすることで、必要数が把握しやすくなると考えられます。

【課題】

統合後の学校に持っていくものを整理したが、統合後に過不足が生じることが多かった。そのため、足りない物品は閉校した学校に取りに行かなくてはならず、また、余った物品は保管場所に困った。



《取組》…南小学校，北浦小学校

まず、基本となるのは、統合する学校同士で、「何の物品があるのか」「何の物品が必要なのか」をリストアップして共有することである。

南小学校では、理科・算数・体育のように物品数の多い教科から整理に取りかかった。

小中一貫を導入する場合は、中学校の物品が小学校でも使用できるか検討する必要がある。

北浦小学校では物品にシールを貼ることで、必要・不必要を分類した。

物品を統合校へ持ち込むのは、終業式が終わったあとになるため、時間が限られている。そのため、教員全員で引っ越し作業をしても時間が足りなかった。保護者や地域住民などの外部の力も必要である。

また、持ち込んだ物品を一括して仮置きできる場所を設けることができれば、多めに物品を持ち込むことができる。

○ まとめ

学校は児童生徒の教育のために設置されている施設であり，学校統合を検討する際には児童生徒の教育環境の向上を第一に考えるべきですが，同時に地域コミュニティの拠点としての機能を有しており，学校づくりがまちづくりと密接に関わる場合が多いことも念頭に置かなければなりません。また，多様化・複雑化する学校へのニーズに対して，教員や教育行政の力だけで対応していくことは難しくなっており，児童生徒により良い教育環境を提供するためには，保護者や地域住民の協力が必要となります。

このように，学校統合の適否については行政が一方的に進めるものではなく，保護者や地域住民の理解と協力を得て行わなければなりません。保護者や地域住民が新しい学校に何を望むのか，十分な話し合いをしながら将来設計を共有し，学校統合を検討していくことが大切です。